

## 適期刈りを可能とする茎葉先熟性ソバ品種と省力栽培技術の開発

### 1 中核機関・研究総括者

(独) 農業・生物系特定産業技術研究機構  
九州沖縄農業研究センター 松井勝弘

### 2 研究期間

2005～2007年度 (3年間)

### 3 研究目的

ソバは子実が茎葉より先に熟するため、子実の収穫適期には緑葉が残っている。ソバはコンバインで収穫するため、緑葉の枯れ上がりを待って収穫すると子実が脱落して収量が低下する。待たなければ茎葉との分別効率が悪くコンバインが詰まって収穫出来ない。暖地ではその現象が顕著である。

本課題担当者は、問題解決のために茎葉が先に熟す普通ソバ系統を開発した。本研究では、茎葉先熟性ソバの有利性を実用栽培の場で明らかにする。さらに、九州各地域に適した茎葉先熟性系統の効率的育成のため、遺伝様式を解明するとともに茎葉先熟性の選抜マーカーを開発する。

### 4 研究内容及び実施体制

#### ① 機械収穫向き系統の栽培技術の開発 (鹿児島県農業試験場大隅支場、(独)九州沖縄農業研究センター)

茎葉先熟性ソバのコンバイン収穫における有利性を明らかにするとともに、茎葉先熟性を最大限に生かした栽培技術を開発する。

#### ② 茎葉先熟性の効率的選抜技術の開発と有望系統の開発 ((独)九州沖縄農業研究センター)

担当者が育成した自殖性ソバ系統を用いて茎葉先熟性の遺伝様式を解明する。それを選抜するためのマーカーを開発する。そのマーカーを用いて選抜を行い、茎葉先熟性の有望系統を開発する。

### 5 目標とする成果

茎葉先熟性ソバの栽培技術を開発する。また、九州各地域におけるソバの収量、品質、収穫効率向上に必要な、茎葉先熟性品種の効率的な育種技術を開発する。

適期刈りを可能とする茎葉先熟性ソバ品種と省力栽培技術の開発

暖地におけるソバ栽培の現状

収穫を遅らせ、霜にあて茎葉を枯らした後、コンバイン収穫。

問題点

- ・脱粒による収量の低下。
- ・品質の低下。

理由

- ・既存のソバは子実が茎葉より先に熟す。
- ・暖地栽培においては、子実の登熟から茎葉が枯れ上がるまでの期間が長い。
- ・子実の収穫適期には茎葉が障害となってコンバイン収穫が困難。

これまでの成果

茎葉が先に熟す系統を開発



研究内容

機械収穫向き茎葉先熟性系統の栽培技術の開発

茎葉先熟性品種の効率的な育種技術の開発

期待される成果

収穫適期時のコンバイン収穫が可能。



品質の向上  
収量の増加  
収穫の省力化

暖地の多様な地域に適した機械収穫向き品種の開発